

ふらべじ

Flower&Vegetable

Vol.4 1997.
6.30
若葉の号

発行 北海道立花・野菜技術センター 滝川市東滝川735 TEL (0125) 28-2800 FAX (0125) 28-2299



リラ冷えの街を彩る

ライラック

Syringa vulgaris

和名はムラサキハシドイ。原産地は東ヨーロッパ南東部やコーカサス地方で、モクセイ科の落葉低木樹です。多くの園芸品種が育成され、花色は白、桃色、紫と豊富です。

ライラックは明治時代中期に一本の苗木が札幌に持ち込まれたのが始まりとされ、寒冷地を好むことから北海道各地に広まりました。

花の時期は6月。澄んだ空気と抜けるような青空にライラックの花が映えます。それは、まるで北国の短い夏を待ち望むかのようです。

—夏の扉を開けますか?—
ライラックは豊かな香りを漂わせながら、街ゆく人々に問いかけています。

平成9年度北海道花き・野菜技術研修がスタートしました

クリーンで新しい技術がここにあります

現在、人々の生活に潤いを与えてくれる花々や健康の源となる安全で新鮮な野菜は、北海道農業の新たな顔としてその地位を築きつつあります。

花・野菜センターでは、道内の中核的農業者や市町村・JA等の技術者のレベルアップを目標に技術研修を行っています。それでは、現在行われている研修の様子をご紹介します。

開講式

去る4月14日、春の到来とともに花き・野菜技術研修がスタートしました。当日は、農業者4名、農業改良普及員15名の研修生と花・野菜技術センターの職員が出席して盛大な開講式が行われました。その後、農業試験場の概要等に関する講義と施設の見学が行われました。



講義

講義は、当センターの研究職員、専門技術員の他、各講義内容の専門に応じた場外の研究職員、専門技術員が講師として熱い講義を行っています。内容としては、花き・野菜生産の現状と課題や主要花き・野菜の品種特性と栽培管理技術等、基礎から実践まで一貫した学習ができるようカリキュラムを設定しています。

研修生のみなさんも、前日の飲み会の疲れによる睡魔のなか、真剣に講義を受けているようです。

実習

実習は、当センターの研究職員や専門技術員が中心となっています。内容としては花き・野菜の育苗技術や挿し木・接ぎ木技術などの他、簡易被覆資材の利用技術や経営分析・経営診断など広範にわたる技術の習得を目標としています。

また、4月16日に視察実習としてホクレン滝川種苗センターと植物遺伝資源センターを、5月9日に札幌市中央卸売市場と札幌花き地方卸売市場を見学しました。



研修は現在、専門技術研修と総合技術研修1期を行っています。研修生は農業者4名、JA職員1名、農業改良普及員2名の合計7名で毎日、講義や実習を行っています。また、研修生は、各自の課題を設定して自主研究もを行っています。みなさん、積極的に勉強に励んでいるようです。



新企画！！

ガンバレ！ 新農業人いんたびゅ〜
ガンバレ！ 新農業人いんたびゅ〜

第1回

明日の農業を担う若き農業者にスポットを当てる企画第一弾。今回は当センターの研修にも参加されている北竜町の2人、堂前諭弥君、坂巻裕人君にインタビューしてみました。

◎それぞれ自己紹介をお願いいたします。

・堂前 昭和52年6月22日生まれ、蟹座のA型です。実家は水稲のほか、メロン、イチゴなどの園芸作物も扱っています。野球が大好きで、かつては甲子園をめざした(?)野球少年でした。ちなみに彼女募集中です。

・坂巻 昭和52年7月22日生まれ、蟹座のA型です。実家は、稲作農家です。スポーツは剣道、バレーボールをやっていました。

◎これからの農業に対する夢を聞かせて下さい。

・堂前 今後、花き生産に取り組んでみたいという夢があります。特に栽培と病害虫について一から勉強したいです。ゆくゆくは北海道一の農家になりたいなあと思っています。



坂巻裕人君 堂前諭弥君

・坂巻 これからメロン、トマトなどの園芸作物にとっても興味があるので作り方を知りたいです。できたら接ぎ木のスペシャリストになれたらいいなあ。接ぎ木のいない品種があったらもっといいですね。研修ではいろんな知識や技術を一つでも多く持ち帰りたいと思います。

◎どうもありがとうございました。

研修係からのお知らせ

花・野菜技術センターでは、研修生を募集しています。現在募集しているコースは、総合技術研修花き栽培コース2期と野菜栽培コース2期及び花・野菜分析栽培コース(土壌肥料分析専攻、病害虫診断専攻、組織培養専攻)です。詳細については各支庁、農業改良普及センターにある研修案内をご覧ください。

問い合わせ先 花・野菜技術センター総務課研修主査まで

TEL 0125-28-2800 (内線209)

花・野菜技術センターのルーツ

花・野菜技術センターのルーツは、昭和39年に設置された中央農業試験場園芸部花きそ菜科になります(勿論それ以前にも園芸作物課として試験研究をしていましたが、科名に野菜・花の名が現れたのはこの時から)。その後、昭和62年に野菜花き第一科、同第二科に拡充改組され、そして、平成8年から現在に至りました。

花きそ菜科の「花き(卉)」の意味は、「花」は「華」の略字として作られ、「蕾が美しくほころぶ」という意味ですが、厳密には狭く、「種子植物の生殖器官」のことを指します。また、「卉」は艸(=草)が三つ(=たくさん)合わさった文字で「草の総て」を意味します。併せて、「花・茎・葉および樹姿・草姿などが観賞の対象となる全ての植物」を総称する言葉になります。

そして、「そ(蔬)菜」の意味は、もともと「蔬」も「菜」も共に「食用になる草木植物」を意味し、併せて(使われるようになったのは明治以降)「野菜・山菜・水菜(じゅん菜、海藻など)・菌類(茸など)を含めた食用になる草木植物」を総称する言

葉になります。・・・別に、「野菜」を「食用とする草木植物の総称」、「蔬菜」を「田畑で栽培される農作物の一つで人が副食物とする草木作物の総称」とする論議もあります

が・・・
ところで、昭和39年頃は食糧基地・北海道として稲作・畑作重用の時流にあって、野菜・花きの導入をアピールし始めようとした時代、昭和62年頃は夏秋季を中心にした野菜・花の供給地としての位置付けを固めようとした時代、そして今、輸入外圧もあり厳しい情勢の中にあつて北海道農業を一面で支える野菜・花産業の体質強化を図る時代です。それぞれの時代に即応して言葉の意味にあつた変遷をしてきたので

しょうか？

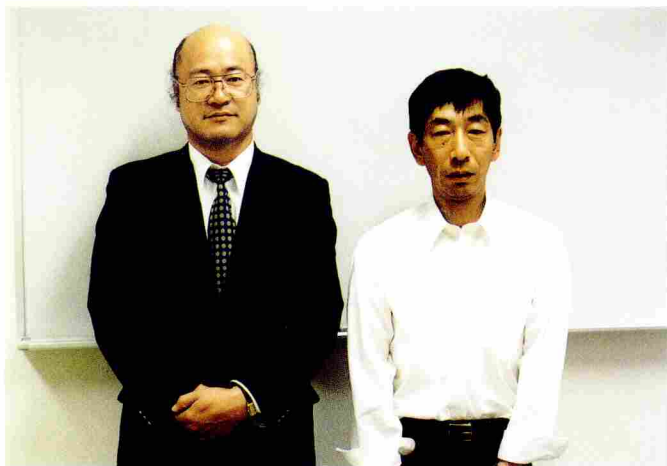
そして、今後地球規模の食糧問題に対処していく時に、また名を変えることがあるのでしょうか。あるとするならばどのような名になるのでしょうか！

[土肥 紘]



新スタッフ紹介

4月の人事異動で花・野菜技術センターに新しい2人のメンバーが赴任しました。いずれも専門技術員室に所属する個性あふれる2人です。皆さん、どうぞよろしく。



尾崎政春

塩沢耕二

編集後記

- ◆アラレ前編集長はヘール・ポップ彗星に乗って産休に入ってしまった、そのあとを引き継いでめでたく？編集長を仰せつかりました。慣れないMacのコンピューターとページメーカーを使つての編集と日夜格闘の上、なんとか4号を発行することができました。広報誌の2年目のジククス(2年目から定期的な発行が滞ること)に負けないよう1年間頑張りますので、ヨロシク！！(H、H)
- ◆農業のことは全くわからない私ですが、ここのところ連日、圃場へ出ていろいろな作業をしています。今まで野菜といえばスーパーで見ることがなかったのですが、これを機会に食べ物のありがたみや大切さを少しでも感じる事ができればと思っています。また編集委員になりました。1年間、よろしくお願ひします。(T)
- ◆花・野菜技術センターができて2年目に突入し、早2カ月が過ぎました。私は今年度、ふらべじの編集委員を仰せつかり、大いにはりきっております。今回は初仕事にもかかわらず、D特研よりやっかいなイラストを依頼され、大学院で学んだすべて(?!)をつぎ込んで取り組みました。いきなり手の内を出し尽くして、これからどうしようかという感じですが、一年間よろしくお願ひいたします。(Go)
- ◆はじめまして。今回からふらべじの編集委員になりました。といつても、皆様が編集で忙しい中、40度の高熱のため身動きができません、何もできませんでした。ごめんなさい。こんな私ですが、よろしくお願ひします。(Ms. Clear)
- ◆赴任早々、編集委員に選ばれました。まだよくわかりませんが次回から頑張ります。(オズ)